



あしかがよしまさ
足利義政は、どんな人だったの



**弱まった^{しょうぐん}将軍の力を回復できず、ぜいたくをした
り、酒びたりになったりした将軍だよ。**

足利義政は1436年に、第6代将軍^{よしのり}義教の次男として生まれました。1449年に14歳^{さい}で第8代将軍になり、1455年に日野富子^{ひのとみこ}と結婚^{けっこん}しました。

政治家としての能力がなく、ぜいたくばかりした

義政は、父^{よしかつ}義教・兄^{よしかつ}義勝の相次ぐ死によって、弱まってきた将軍の力を、回復しようとしてしました。しかし、政治家としての能力がなかったので、将軍の力を人々に見せびらかすことしか、できませんでした。ききんのときも、わずかなお金を寄付しただけで、自分のやしきの工事のほうに、お金を使いました。ききんの後も、能・花見や旅行を大がかりに行うなど、ぜいたくな遊びばかりしました。

応仁の乱^{おうにんらん}を利用しようとしたが、うまくいかなかった

斯波氏^{しばし}と畠山氏^{はたけやまし}で、後つぎをめぐる争いが起こると、義政は、将軍の力を示すチャンスとばかりに、口出しをしました。問題をこじらせたただけでした。その義政にも、男の子がなかったので、弟^{よしみ}義視を後つぎに決めたら、翌年^{よくねん}、富子^{よしひさ}が義尚を生んだため、ややこしい後つぎ問題が起こりました。これらの争いから、応仁の乱が起こると、その乱を、自分の思うように利用しようとしてしましたが、うまくいかず、毎日^{えんかい}のように宴会を開いて、酒びたりになりました。

引退後は、^{ひがしやまさんそう}東山山荘に住んだ

応仁の乱の最中に、義視が東軍から西軍に移ると、義政は義尚を将軍にして、引退しました。乱の後は、東山のふもとに別荘^{べつそう}（東山山荘）を建てて住みました。1485年に出家し、山荘内に東求堂^{とうくどう}や観音殿^{かんのんでん}（銀閣^{ぎんかく}）を建てました。義尚の病死后、将軍に復帰しましたが、1490年に^{のうそちゅう}脳卒中^なで亡くなりました。